

イリノイ大学派遣留学月例報告書

５月のイリノイはもうすっかり夏です。大学のプールは解禁になり、皆気持良さそうに泳いでいます。大学のクオードと呼ばれる広場でも、まるでビーチのように水着姿で背を日に焼いています。そういう光景を見ていると、大学がよいよ夏休みに入っていくのだなと実感させられます。

さて、いよいよこの月例報告書もこれで最後となりました。今月の報告書では、今学期の授業の感想とまとめ、およびこの留学全体を振り返りたいと思います。

<内容>

1. 今学期の各授業の感想とまとめ

- SPSHS 376: SPEECH SCIENCE
- SPSHS 102: Introduction to Human Communication: Systems, Processes, and Disorders
- ESL 110/410: English Pronunciation for Academic Purposes
- ESL 114: Introduction to Academic Writing for Undergraduate Students
- 今学期の授業のまとめ

2. 留学の総括

1. 各授業の感想

今学期受講した科目の内容を総括し、それぞれの感想を述べます。

- SPSHS 376: SPEECH SCIENCE 4 hours

この科目は私が留学して最も取りたかった科目で、内容はこれから研究を始める大学院生や学部  
の４年生のために、SPEECH SCIENCE の分野で実験を進めていくために必要な基礎的な原理や方法  
を学ぶものでした。例えば、呼気量や口唇の動きを定量化するための方法や、声帯振動をどのよう  
に可視化するか、舌の動きを観察する方法、音声解析の手法などを学びました。

これまで私は音声解析しか知りませんでしたので、人間の発話についての動きを、定量化や観察  
するための方法を数多く学べたことは、今後の研究に活かすことが出来そうで大変満足しています。  
ジェネラルな内容でしたが、SPEECH SCIENCE が全体としてどのような手法を持ってどのようなこ  
とをやっているのかを知ることができたことは大変に大きかったです。

ただ、中間テストの出来が今一步だったことがとても心残りです。先学期の SPEECH SCIENCE  
に比べれば、授業も相当理解できるようになっていましたので、テストもある程度は出来るだろう  
と思っていました。しかしながら、中間試験では想像以上に苦戦を強いられ、冷や汗をかきながら  
のテストとなってしまう、まだまだ実感と点数が結びつかないのだと思い知らされました。ですが、  
ファイナルまで努力を続けた結果、最後には満足いく成績が残せました。中間試験の失敗をバネに、  
出来る限りの努力を続けた結果がファイナルに繋がったのだと思います。

この科目は非常に満足度の高い結果が残せたと思います。

- SPSHS 102: Introduction to Human Communication: Systems, Processes, and Disorders 3 hours

この科目では、健常者の発話や聴覚の仕組みを学んだ後に、発話や聴覚の障害のメカニズム、ま  
たその治療方法について学びました。具体的には、脳の障害や口蓋裂からの発話障害、癌やポリ  
プなど声帯付近で発生する病気、難聴のメカニズムとその治療法などでした。

この講義で特に印象深いのは、吃音についての講義でした。吃音とは発話がスムーズに行えず、  
言葉にいつも詰まってしまう発話障害のことです。ちょうど、TVドラマの山下清さんのような発

## 派遣留学月例報告書（４・５月分）

金沢工業大学 大学院 システム設計工学専攻

蔭山 洋介

話の仕方のことです。重度の吃音の患者は、非常に話すことが苦手なのですが、ホワイトノイズやメトロノームなどのリズムを聞かせると、突然健常者のようにスムーズに発話出来るようになります。その様子をビデオで見ながら、人間が発話すると言うことは、脳の中で密接にリズムと結びついているのだということを強烈に実感させられました。

この吃音に限らず全般的に、発話という行為は様々な機能が適切に機能しないと成り立たないこと、それら各機能がどのようなものであるのかを、健常者と障害の症例を比べることで大変良くわかり、興味深く受講することができました。

この科目も、演劇の科目が取れなかった代わりに受講したのですが、大変満足いく講義内容でした。

### ・ ESL 110/410: English Pronunciation for Academic Purposes. 3 hours

この科目は英語の発音と聞き取りの能力を訓練するために、英語特有の発音のためのルールやテープへの録音などを通じて、それらの能力を獲得しようするものでした。

授業が始まった当初、英語の発音のルールを覚えても実際には使えないのではないだろうか、この講義の内容に強い疑問を持ちながら受講していましたが、授業を終えてみれば英語の発音に対する意識がすごく高まって、どのように発音すべきかある程度コントロールできるようになっていました。ですから、疑問を持ちながらも結果的に英語の発音の能力の向上に繋がったと思います。

ただ、この講義は本当に宿題が多くて苦労しました。講義が終わってみればハンドアウトの厚さが片手では持てないほどに。おかげで、他の科目の勉強に少し響いたかもしれません。英語はツールですから、そのツールそのものがよく使えることも大切なのですが、肝心の Speech Science の勉強には影響が出ない範囲で勉強がしたかったなと思います。しかし、内容には満足しています。

### ・ ESL 114: Introduction to Academic Writing for Undergraduate Students 3 hours

この科目は英語のアカデミックライティング能力を高めるための講義でした。先学期の ESL113 が、小論文のように思いついたことを文章にまとめる訓練でしたが、今回は一歩進んで、他人の書いた文章を引用しながらリサーチペーパーやエッセーを書く方法を学びました。

最終的には、このセメスターを通じて計10本近くのエッセーやリサーチペーパーを提出しました。日本語で文章を書くのも私はとても遅いので、本当に苦労しました。ですが最後までやりぬいた結果、スキミングが少し出来るようになり、英語で文章を書くことがずっと楽になったと感じています。特に最後のリサーチペーパーは満足いく内容に仕上がって、英語で文章を書くことに自信が持てるようになりました。またこの科目を履修して、自分の表現がこれまでいかに口語的であったのかがよくわかりました。アカデミックライティングにはそのための書き方があるのだと、日本語でも友達に書く文章と大学のレポートを書く文章が違うのは当たり前ですが、英語でもそうなのだ、やっと気がつきました。英語の出来る人にとっては当たり前のことなのでしょうが、私は英語が本当に苦手だったので、ようやくその区別が出来るくらいに英語の力がついてきたということだと思います。

最後には自分のライティングのスキルの伸びが実感できましたし、課題でも良い成果が残せたと思っています。

### ・ 今学期のまとめ

今学期はどの科目も充実した内容で、満足いく成果が残せたと感じています。しかし、この学期の初めの一ヶ月ほど、少し勉強へのモチベーションが低下した時期があったことは反省したいです。先学期のファイナルの大変さが、次の勉強へ向かう気力を削いでしまって、結果として今学期の始めの一ヶ月間はあまり勉強がはかどらず、何にもしていなかったのではないかと感じるからです。

## 派遣留学月例報告書（４・５月分）

金沢工業大学 大学院 システム設計工学専攻

蔭山 洋介

自分の未熟さを思い知った期間でした。反省です。

ですが、全体としては大変充実し楽しく頑張ることができたセメスターになったと思います。

### ２．留学の総括

去年の今ごろは、留学のための準備を一生懸命にしていた時期でした。英語ができないことに対して不安はありましたが、そんな不安より留學生活に対する期待がすごく大きく、ただがむしゃらに英語を勉強していたような気がします。

６月、IEIにて英語研修がスタート。思っていた通り英語はわからなかったのですが、クラスメイトに恵まれ、毎日本当に楽しく英語を勉強することができました。そして、世界中に友達を持つことができました。IEIで最も充実したと感じるのは世界中に交友の輪を広げられたことです。この縁は生涯大切にしていきたいです。

９月、イリノイ大学の fall semester が始まりました。初めての授業は本当に何もわからなくて、手に冷や汗をかきながらの授業だったのを今でも昨日のこのように思い出します。ですがなんとか、友人達の支えや、先生方の配慮のおかげで、fall semester を乗り切ることができました。また、この学期では演劇を沢山勉強したことが印象に残っています。このとき得た知識や経験を、今後の活動に繋げていきたいです。

１月、spring semester が始まりました。この学期では、主に Speech Science の内容を徹底して学びました。演劇を勉強できなかったのは残念でしたが、Speech Science の全般を一通り勉強できたことは研究にそのまま繋がるので、Speech Science のクラスを履修できて本当に満足でした。また、この学期の終わりには、停滞していた英語の伸びを実感できるようになり、一年間継続して努力してきた甲斐があったと、やってきたことに自信を深めました。

こうして振り返って見れば、私が留学する目的、Speech Science のクラスを履修すること、演劇のクラスを履修すること、英語の勉強をすること、それらの全てを達成することができ本当に満足いく成果が残せたと思います。しかし、この留学は一つのステップですから、それら目標を達成できたことに満足せず、この次の目標に向かってこの経験を土台とし、努力を続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、留学を全面的にサポートしてくださった国際交流室の皆様、札野室長に改めてお礼申し上げます。そして、この留学の後半からではありますが、毎月の月例報告書を読覧しアドバイスを下さった新居先生にもお礼申し上げます。また、この留学期間中、励ましあい慰めあった矢部さん、竺さんにも感謝します。最後に、この留学期間中、何度もメールで叱咤激励くださった故垣田有紀先生にも心から感謝致します。皆様、本当にありがとうございました。

以上を留学最後の月例報告とさせていただきます。